

礼肥重点施肥による施設ビワの増収						
<p>[要約] 施設ビワ‘長崎早生’では、<u>礼肥の窒素分施肥割合</u>を従来の年間窒素施肥量の30%から50%に増肥することで、枝数が増え、一果重が大きくなり果実収量が向上する。</p>						
果樹試験場・施肥改善科	専門	土壌肥料	対象	果樹類	分類	指導
平成12年度長崎県果樹試験場業務報告						

[背景・ねらい]

施設ビワでの経営安定を図るには、高単収を確保することが先ず重要である。適切な施肥を行うことも、単収の確保のためには重要である。しかしながら、施設ビワの施肥基準は今のところ策定されておらず、露地ビワの基準を準用している実態にある。

そこで、施設ビワでの適切な施肥法を確立するために、先ず、窒素の分施肥割合について明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 礼肥重点施肥により、枝数が増加し、枝径も太くなる（表1）。
2. 礼肥重点施肥により、収量が向上し、果実糖度もやや高くなる（表2）。
3. L玉果以上の割合は、礼肥重点施肥区で多い。
4. 以上のことから、施設ビワ‘長崎早生’の収量を考慮した場合、最適な窒素の年間分施肥割合は、礼肥（5月上旬）、基肥（8月下旬）、実肥（11月中旬）で50－30－20%である。

[成果の活用面・留意点]

1. 施設ビワの施肥基準策定のための基礎資料として活用できる。
2. 排水性等、土壌物理性の良好な園で適用できる。
3. 実肥重点施肥では果実が小玉で硬く、収量も少ない。

[具体的データ]

表1 枝の生育状況および収量

処理区名	全枝数 (本/樹)		収量 (Kg/樹)		1果重 (g)	
	1998	1999	1999	2000	1999	2000
礼肥重点区	90a	125a	4.57ab	7.14a	48.7a	44.0a
実肥重点区	66c	111a	3.58c	4.57c	47.6a	40.6c
実肥省略区	85ab	120a	4.81a	5.98b	50.1a	42.0b
対 照 区	75bc	114a	4.14bc	5.57b	49.4a	43.5a

注) 異なる英小文字間はDuncanの多重検定により5%水準で有意であることを示す。

表2 品質

処理区名	糖 度		酸含量 (g/100ml)		果肉硬度 (g)
	1999	2000	1999	2000	1999
礼肥重点区	12.5a	11.3a	0.15ab	0.28a	406ab
実肥重点区	12.0b	11.4a	0.17a	0.31a	430a
実肥省略区	11.7b	10.8b	0.14b	0.22b	370c
対 照 区	11.9b	10.7b	0.15ab	0.27a	401b

注) 異なる英小文字間はDuncanの多重検定により5%水準で有意であることを示す。

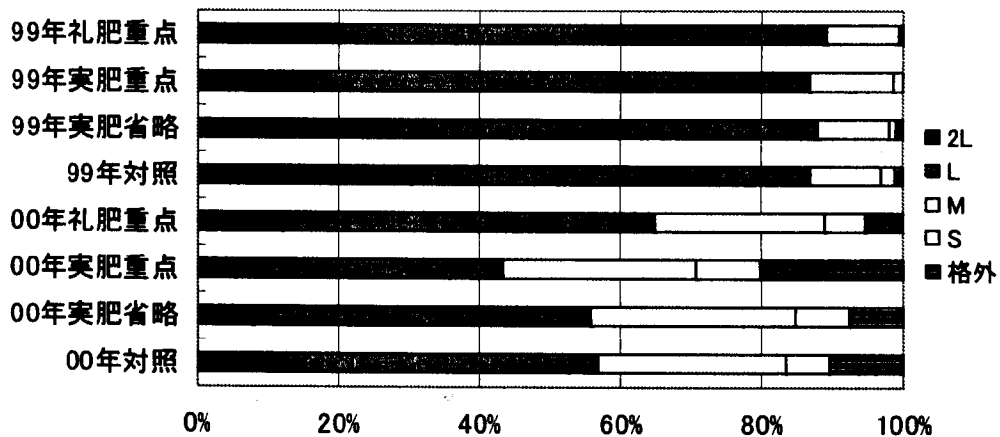


図1 規格別構成割合

[その他]

研究課題名: 施設ピロ園の多収要因の解明による単収1.5トンの生産技術の確立

予算区分: 県単

研究期間: 平成9年~12年

研究担当者: 藤山正史

既発表論文等: なし